第 3 期　竹田市地方創生総合戦略＜概要版＞

1．策定の背景

・高度な教育機会や多様な就業機会を求める若年層を中心に、都市部への一極集中が進む一方で、地方の過疎化が一層深刻な課題となっています。
・このような状況を踏まえ、国は2014年（平成26年）11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、積極的な政策対応に着手しました。
・さらに、令和4年12月にはデジタル技術の活用と地域の個性を重視した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定し、地方創生のさらなる推進を図っています。
・竹田市では、2015（平成27）年３月に、国の地方創生の流れに先行し、人口減少による地域社会の将来リスクの検討、定住・移住促進策や自治体のブランド力を高める施策展開を「竹田市定住促進ビジョン」としてとりまとめるなど、将来に対する危機意識を強くもって臨んでおり、今回新たな総合戦略として「第３期竹田市地方創生総合戦略」を策定します。

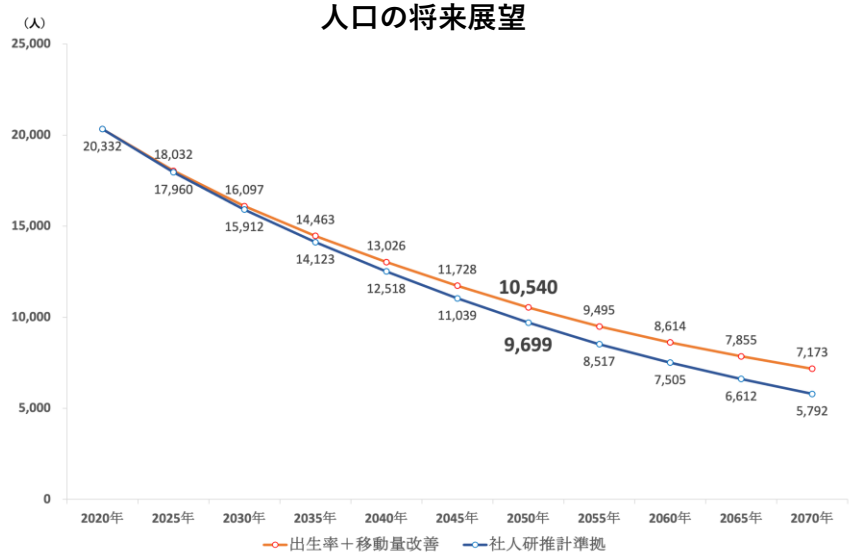
2．竹田市人口ビジョン

2050（令和 32）年　目標人口　10,540人

合計特殊出生率 ・・・令和 15 年 1.84の実現
転出超過数・・・５年ごとの社人研予想+65人(男40人、女25人)抑制

25 年後の2050年の本市の人口は、現状のシミュレーションよりも、800人以上多くなることを目指します。
稼ぐ仕事の創造や域内の仕事を支えるなどして、人口の転出抑制と転入者数の増加を目指します。

人口の将来展望



3．第３期計画策定の基本的な視点

視点１　人口規模が小さくても豊かに暮らしていける社会をつくる

人口減少はその歯止めに時間を要し、歯止めをかけたとしても一定の人口減少は進行し続けます。そこで、人口規模が小さくても豊かに暮らし続けられる地域を維持していくための仕組みづくりを強力に推進し、暮らしの質の向上を図るとともに、市民一人ひとりが「自らが暮らすまち、地域をつくっている」と感じられるようなシビックプライドを醸成していきます。

視点２　域内の資産や財源には限りがあることを意識し、整理、集約、多機能化を進める。また、人材の活用についても最適化を図る。

小規模な人口で地域社会を維持していくためには、地域内の 人材、資産、財源 には限りがあり、これまでどおりの潤沢なリソースは望めないことを認識しなければなりません。新たな組織や事業の立ち上げ時だけでなく、行政部署や制度ごとに地域内に分散している既存の事業や役割の整理・集約・多機能化を進め、効率的な運営を検討します。

視点３　市場特性や地域資源を最大限生かし、域外の力を味方につけ、域外から稼ぐ

竹田市は過疎化・高齢化が急速に進む現状を、未来を先取りする機会と捉え、地域資源を最大限に活用した持続可能なまちづくりを推進します。域外との連携を強化し、新たな資金調達や人材流入を図るとともに、地域経済の活性化を目指します。市民一人ひとりが地域の担い手としての誇りを持ち、未来へ希望をつなぐまちを実現します。

視点４　自立性・将来性・地域性・総合性・結果重視の政策５原則、とりわけ「結果重視」を意識した政策展開

国の指針に基づき、地域課題の解決と将来を見据えた持続可能な地域社会の実現を目指します。既存の仕組みにとらわれず、成果を重視した政策を展開し、財源や人材の有効活用を図ります。市民のニーズに応え、費用対効果の高い施策を実施するため、PDCAサイクルによる継続的な改善を行い、常に最適な政策を追求します。

4．竹田市地方創生総合戦略【全体像】

基本目標Ⅰ　人の流れ

誰もが集まりたくなる魅力的で
いきいきとしたまち

◎重要指標
・市外への転出超過数
・観光入込客数総数

1．移住の推進、住環境整備を
はじめとする定住促進

・移住を促進させる支援体制の充実
・定住促進のための住環境整備
・様々な分野、地域のひとのつながりによる関係人口の創出

2．地域ブランディングを通じた
移住・定住促進

・城下町の情感を活かした中心市街地の活性化
・湯治文化を活かした保養温泉地づくりとヘルスケア産業の創出
・地域の歴史・文化・自然などの地域資源の保全活動による地域力の向上

3．地域の魅力を引き出す
観光プロモーション

・地域ごとのニーズに捉えた多様なツーリズムによる交流機会の創出
・インバウンド（海外誘客）への対応

4．多様な視点で地域を魅せる
情報発信

・竹田ならではの魅力的な情報コンテンツづくり
・様々な媒体による情報発信の強化

基本目標Ⅱ　しごと

働く人がいきいきと輝く活力のまち

◎重要指標
・個人の年間農業収入額
・全分野の企業誘致件数

1．農林畜産業を成長産業と位置付け、
集中的に育成・誘致・効率化を図る

・農業後継者（新規就農者や親元就農者）の育成と環境改善
・企業との連携（農業）
・農商工連携による販売拡大・ブランド化の推進
・農林畜産分野での先端技術の活用
・農林畜産業の発展を支えるための域内外活力の積極的誘致

2．魅力的で柔軟な働き方の実現によ
る多様な雇用機会とのマッチング

・誰もが活躍できる職場環境の創出と働き方改革
・若者から高齢者まで、多様な就労ニーズと雇用機会とのマッチング
・地域の産業に貢献する外国人人材の受入れ支援

3．地域産業活性化に向けた多角的ア
プローチ

・クリエイティブな発想を活かした起業
・創業の推進と「創造的人材」の集積
・商工業の活性化と空き店舗対策

4．地域経済の強化を目指す企業誘致
戦略

・企業誘致施策の推進
・多様な産業の誘致と地域経済の活性化

基本目標Ⅲ　子育て等

子どもも大人も共に成長する
育みのまち

◎重要指標
・保育士数を確保している施設数
・平均寿命とお達者年齢の差

1．結婚から子育てまで切れ目ないき
め細かい支援

・保育サービスの充実
・地域ぐるみで子育て一番宣言
・安心して子育て（妊娠・出産）できる環境づくり

2．誰もが安心して暮らせる地域医療
と自立支援のまちづくり

・地域医療体制の整備・充実
・誰もが自立した生活を継続できる地域づくり

3．健康一直線～市民総参加で健康寿
命を延ばすまちづくり～

・健康づくり組織の育成と支援
・健康推進と予防活動の充実
・高齢者の保健事業と介護予防の連携
・元気な高齢者の活躍の場づくり

4．子どもの学びを支える教育環境の
整備と充実

・竹田郷土学の推進により、豊かな心・地域を愛する心をはぐくむ取り組み
・竹田市学校教育ビジョンの推進と実践
・子どもたちの学びを支える教育環境の整備・充実
・地域の将来を支える人材育成のための魅力・特色ある高校づくり

基本目標Ⅳ　魅力的な地域

誰もが快適に生活できる
安全・安心のまち

◎重要指標
・地域運営組織の形成数
・行政手続のオンライン化数

1．地域コミュニティの活性化

・地域防災機能の強化
・多文化共生による地域力の向上

2．デジタルインフラを活用した生活
環境の整備

・通信インフラ強化と市民サービス向上
・行政機能のデジタル化

3．公共交通の利便性向上

・広域交通ネットワークの推進と地方公共交通網の再編

4．持続可能な地域環境の実現に向け
た取り組み

・強靭かつ環境に優しい循環型社会の構築
・環境に負荷をかけない地域づくり
・地域に根ざした集落機能の維持と地域活性化の推進
・公共施設等の適正管理と有効活用の推進

竹田市